

選書ツアーの開催

1 活動の概要

10年ほど前から学校と取引のある書店で図書委員が選書体験を行う取り組みを行っていたが、前任者が名称を「選書ツアー」と改めた。会場の都合から多くの生徒を引率できないため、図書委員を対象に募集を行い、令和5年度は夏休みと冬休み、令和6年度は夏休みに図書委員会担当教員と全日制・定時制の学校司書が協働して実施した。今年度は、図書委員の生徒目線による読みたい・必要だと思う本を所蔵することで、学校図書館がより身近な存在になることを目的とした。また、実施後には生徒へのアンケートを行うとともに、配架準備が整った9月末から1か月間、図書館入室後すぐの場所において購入図書の見聞を行った。



2 活動の状況、実際

【対象】図書委員会（7名程度） 【場所】丸善 ラゾーナ川崎店

【内容】 店舗からバーコードを読みとる端末を1人1台借用し、欲しい本のバーコードを読み取る形で選書を行った。選んだ本は約170冊に及んだが、「この本があったら部活とか、資格試験（検定）の勉強で使ってもらえるかな」など、好みだけでなく図書館の魅力向上のためにどうしたらよいかを考えて選書する姿も見られた。

生徒が選んだ本の一覧は書店から学校側に共有され、司書が図書館の蔵書や収集基準を基に選定したが、原則「生徒目線」を意識し普段では選書しない本も購入に踏み切った。

今回、選書した本のリストを紙媒体で全校配付したところ、普段では利用しない生徒が「この本どこですか」と問い合わせに来るなどの反響があった。また展示の際には、生徒の感想を掲示した。選書した生徒が「この本自分が選んだの」と友人に話す様子や、利用者が「この本読んだことある」「読んでみたいと思っていたんだ」とコーナーで足を止める様子も見られた。



3 参加者、指導者等の声

<参加者の声>

- ・目に入った時、思わず手に取って読みたくなる本を選んだ。沢山読んでお気に入りの一冊を見つけてほしい。
- ・通っている書店だけど、じっくり見たことがなかったので良い機会になった。本に夢中で時間が足りなかった。また参加したい。
- ・本屋は1人で行くことが多く、学校の人と行くことでいろんなジャンルに挑戦しようと思った。この取り組みが新鮮だった。

<指導者の声>

- ・図書委員が利用者の目線になり選書する姿に、感慨を覚えた。
- ・司書や教員では選書しない本も多く、「高校生がこういう本を選ぶのだな」という気づきがあった。

